

Title	現代中国語におけるいわゆる「補語」について
Sub Title	On the 'bǔ yǔ' in modern Chinese
Author	山下, 輝彦(Yamashita, Teruhiko)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1976
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.35, (1976. 2) ,p.74(47)- 90(31)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00350001-0090

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

現代中国語におけるいわゆる 「補語」について

山下輝彦

(1)

§1. 《漢語教科書》では、中国語における「補語」は「動詞や形容詞の意味を補う要素」と定義されている。機能からいうと一般に動詞や形容詞を補って意味を明確にするのが副詞であるが、中国語では動詞、形容詞またはそれらの相当句、あるいは短文を接続させて中心語である動詞や形容詞の意味を補うことができる。《漢語教科書》(以下《教科書》と略称する)ではこれを「補語」と称しているが、「補語」は、簡単な手続きによって複雑な意味を簡潔に表わす手段であって、いわば中国語の表現を豊かにする、きわめて重要な部分であるといえよう。例えば、

①我把他說哭了。Wǒ bǎ tā shuōkū le. (私は彼が泣きだすまで彼を叱った) 動詞「説」shuō に動詞「哭」kū を接続するだけで、<彼が泣きだすまで叱った> という意味の複合的表現が達成されており、「哭」kū が《教科書》のいう補語に相当するが、このような文法手続は不変化語である中国語のもっとも大きな特徴の一つであると考えられる。

しかしながら「補語」の定義及び内容は中国の文法書によって一定しているわけではない。そこで小稿では、文法諸家の「補語」の扱い方を比較検討し、それによって筆者の考えを明らかにするとともに、「動補構造」とそれに関係の深い「把」字句との関連について考えてみたいと思う。

§2. 《教科書》では「補語」を「結果補語」、「程度補語」、「方向補語」、「可能補語」及び「その他の補語」の五つに分類し、それぞれをつぎのように定義している。

1. 結果補語

②我要学好中文。Wǒ yào xuéhǎo Zhōngwén. (私は中国語をマスターし

たい——学習して、その結果習得したい——)

——「動詞のあとにあって、動作の結果を補足説明する。」

2. 程度補語

③他来得早。Tā lái de zǎo. (彼は来るのが早い)

④屋子里热得穿不住棉衣服。Wūzili rède chuānbuzhù miányifu. (部屋の中は綿入の服が着られない程暑い)

——「ある動作がどの程度に達したか、またはどういう結果になったかを言い表わそうとするときは、動詞のあとに程度を表わす補語をつけかわえる」

3. 方向補語

⑤先生进教室来了。Xiānsheng jìn jiàoshì lái le. (先生は教室に入ってきた)

⑥她从宿舍里跑出去了。Tā cóng sùshèli pǎo chūqu le. (彼女は寄宿舎から走って出ていった)

——「動詞の“来” lái と“去” qù は、述語として用いられるほか、しばしば補語としても用いられる。……これを方向補語という。」

4. 可能補語

⑦你记得住这些词的意思吗？Nǐ jìdezhù zhè xiē cí de yìsi ma. (あなたはこれらの単語の意味が覚えられますか)

⑧那个同志是哪国人，你看得出来吗？Nàge tóngzhì shì nǎguó rén, nǐ kàn de chūlai ma. (あの人はどこの国の人なのかあなたは見てわかりますか)

——「可能や願望を表わす動詞のほか、可能補語によっても、可能を表わすことができる。とくに動詞が結果や方向を表わす補語を伴っているときは、可能や願望を表わす動詞を使用するよりも、可能を表わす補語を使用するほうが、より中国語の習慣にあっている。可能を表わす補語は、結果や方向を表わす補語の前に、造句助詞の“得”をおいて構成する。」

5. その他の補語

⑨我每天练习发音练习半小时。Wǒ měitiān liànxí fāyīn liànxí bàn xiǎoshí. (私は毎日30分発音の練習をする)

—この「補語」には、動作の量を表わすものなどが含まれ、ほかの四種とは、いささか異なっている。

§3. 黎錦熙の《新著国語文法》⁽²⁾には、「補足語」という用語がある。しかしこれは《教科書》でいう「補語」に相当するものではない。例えばつぎの例文における「労働者」láodòngzhě や「報告」bàogào を指すのである。

A. 工人是労働者。Gōngrén shì láodòngzhě. (労働者は働く者である)

B. 工人請我們報告。Gōngrén qǐng wǒmen bàogào. (労働者は私たちに講演を依頼した)

つまりいわゆる伝統文法における complement の概念に相当するものであって、「補語」ではない。

Aは《教科書》では「体言述語文」に分類され、Bは《教科書》の「兼語式」に当る文型である。《教科書》でいう「補語」は寧ろ本書の「後置副詞性附加語」に近い。黎錦熙は「副詞性附加語」を「直接附加するもの」と「介詞『得』de でつなぐもの」とに分類している。「直接附加するもの」の中には、次のような例文がある。

⑩不好了！ 来摘印了！ Bù hǎo le! Lái zhāi yìn le! (まずいことになった、<彼らがわれわれを> 誠にしにきた)

これは《教科書》では「連動式」に分類されている。

また「介詞『得』でつなぐもの」を黎錦熙はさらにつぎのように細かく分類している。

(1) 副詞へつづくもの、例えば

⑪这个法却定「得」不好。Zhègè fǎ què dìngde bù hǎo. (このやりかたはまずかった)

(2) 副詞句へつづくもの、例えば

⑫这也說「得」有理。Zhè yě shuō de yǒulǐ. (このいい方にも一理ある)

(3) 副詞文へつづくもの、例えば

⑬一阵怪风，刮「的」树木都飕飕的响。Yízhèn guàifēng, guāde shù mù dōu sōusōude xiǎng. (怪しげな風が木にざわざわと音をたてさせながら吹いた)

この「介詞『得』でつなぐもの」は《教科書》の「程度補語」と一致するようである。

§4. 王力の《中国語法綱要》⁽³⁾では「我来得不巧了」Wǒ láide bù qiǎo le. (私はまずいときに来てしまった) のような構造をもつ文章を「通繫式」という。王力の説明によれば、この文では、「我来」wǒ lái が叙述句で、「来的不巧」láide bù qiǎo が描写句である。この二者が「通繫」して、「来」lái は「我」wǒ の述語であり、「不巧」bù qiǎo はまた「我来」wǒ lái の述語であるという。王力の例文は、ほとんど《紅樓夢》からとられているが、通繫式について次のような例文が挙げられている。

⑭ 小的天天都来的早, Xiǎode tiāntiān dōu láide zǎo. (私は毎日早くやっ
て参ります)

⑮ 賈政还嫌打的轻。 Jiǎzhèng hái xián dǎde qīng. (賈政はまだ打ちかたが
軽いといっております)

ただし、これらはいずれも《教科書》でいう「程度補語」に相当する。しかし、上掲例文④、⑫、⑬のように、「得」de (「的」と書いても同義) のあとに「動賓構造」や句子——文形式——など複雑なものがつづくものについては、王力はそれを「通繫式」と区別して、「結果式の緊縮」と呼んでいる。例えばつぎのような文は「結果式の緊縮」である。

⑯ 说的林黛玉噗嗤的一声笑了。 Shuōde Lín dàiyù pūchī de yìshēng xiào
le. (林黛玉がそれを聞いてクスッと笑った)

しかしながら例文⑮と⑯のような文型は《教科書》では区別しない。黎錦熙も両者を同じ分類に入れている。⑮は⑯の複雑な形に過ぎないのに、なぜこのように二つの形式に分けるのであろうか。これについて、王力は、《中国語法理論》⁽⁴⁾の中
でつぎのように説明している。

1. 両方とも「得」de を用いるが、「通繫式」の「得」de のあとには「描写語」(形容詞) がつづくけれども、「緊縮式」の「得」de のあとにつづくのは「叙述語」(動詞) である。
2. 「通繫式」の「次繫」(「得」de のあとの部分) は「初繫」(「得」de の前の部分) の述語を主語とし、「次繫」自体の主語はないが、「緊縮式」の場合には「次繫」がそれ自身の主語をもつことができる。
3. 「通繫式」では「得」のあとの描写句が文全体の主要部分であり、「緊縮式」では「得」のあとの叙述句が従属部分というべきであり、少なくとも主要部分とはいえない。

王力はこの理由について、近代印欧諸語の文法概念を踏襲したものであると説明しているが、これは必ずしも中国語の実情にあうとは思われない。このことはつぎの例で理解されよう。

⑩他讲故事讲得大家都忘了睡觉了。Tā jiǎng gùshi jiǎngde dàjiā dōu wàngle shuìjiào le. (彼がした話はみんながねむるのを忘れてしまうほどのものだった)

この文では「他讲故事」tā jiǎng gùshi が「大家都忘了睡觉」dàjiā dōu wàngle shuìjiào の原因だといえる。したがって、「得」のあとの叙述句が主要部分だといえないことはない。

ところで、王力は《教科書》でいう「結果補語」については、その一部（「～到」dào など）を「結果式」に、一部を「使成式」に分類している。が、いずれも詳論を欠いている。

§5. 呂叔湘と朱德熙共著の《語法修辭講話》⁽⁵⁾では、「跑得快」pǎode kuài (走るのがはやい)の中の「快」kuàiを、動詞の後につける「附加語」に分類している。その分類によれば、動詞の「附加語」は、動詞の前におくもの(例えば「快跑」——速く走る)と動詞のあとにおくもの(とがあり、上に述べたところはいうまでもなく後者の例である。だが、動詞のあとにおく「附加語」はさらにつぎのように分類される。

1. 「得」de によって結合されるもの、例えば

⑩走得慢 zǒu de màn (歩くのが遅い)——附加語に形容詞が用いられている。

⑩笑得说不出话来 xiào de shuōbùchū huà lái (ことばがでないほど笑った)——附加語が動詞或は動賓句に相当する。

⑩闹得大家不能睡觉 nàode dàjiā bù néng shuìjiào (みんなが眠れないほど騒いだ)——附加語が文形式である。

B. 「得」de によらずに結合されるもの、例えば

⑩坐在家里 zuò zài jiāli (家の中に坐ってる)

⑩走向和平 zǒu xiàng héping (和平に向って歩む)

Aは《教科書》の「程度補語」であり、Bは「結果補語」ないし「方向補語」の範疇とほぼ一致する。

§6. 凌冰の《語法知識提要》⁽⁶⁾では「補足語」という用語が使われているが、この「補足語」は黎錦熙の「補足語」とは全く同じではない。凌冰によれば、「補足語」は「名詞の補足語」(A)、「動詞の補足語」(B)、「形容詞の補足語」(C)のごとく分けられている。例えば

⑳小王是个很好的同志，很年轻，很热情，也很勇敢。Xiǎowáng shì ge hěn hǎode tóngzhì, hěn niánqīng, hěn rèqíng, yě hěn yǒnggǎn. (王君は大変すばらしい同志で、若くて、親切で、その上勇敢である)

では、「很年轻，很热情，也很勇敢」hěn niánqīng, hěn rèqíng, yě hěnyǒnggǎn は主語「小王」Xiǎo wáng の「補足語」(A)である。

これに対して、凌冰は

㉑我们把地板洗干净。Wǒmen bǎ dìbǎn xǐ gānjīng (私たちは床をきれいに掃除する)

㉒他大叫一声，便倒在地上。Tā dàjiào yīshēng, biàn dǎo zài dìshàng. (彼は大声をあげて地面に倒れた)

㉓全体大笑，笑得大家肚子痛。Quántǐ dàxiào, xiào de dàjiā dùzi tòng. (みんながおなか痛くなるほど笑った)

を(B)の例としてあげられている。

また(C)の例として凌冰は次の例文をあげている。

㉔她胖得走不动路，Tā pàng de zǒubú dòng lù. (彼女は歩けないほど太っている)

(B)と(C)はほぼ《教科書》の「補語」に一致するように思われる。

§7. 1953年11月に出版された張志公の《漢語語法常識》⁽⁷⁾でも「補足語」はA—「名詞と指示代名詞の補足語」、B—「動詞の補足語」と、C—「形容詞の補足語」に分けられている。Aは主に同位語や名詞代名詞の注釈的な成分、例えば

㉕远处有个村子，不小的一个村子…… Yuǎnchù yǒu ge cūnzi, bù xiǎo de yíge cūnzi…… (遠いところには村が一つある、小さくない村が……)

の中の「不小的一个村子」bù xiǎo de yíge cūnziのごときを指す。

張志公は「修飾語」と「補足語」の定義についてこう述べている。「ある語の前においてその語を修飾する語句は『修飾語』といい、ある語のあとにおいてその語を補う語句は『補足語』(或は『補語』と略称す)という」、すなわち、修飾成分の

位置——中心語の前か後か——によって、「修飾語」と「補足語」に分けられるのが張志公の分類であるが、さらに動詞の補足語については

- (1) 動作の結果
- (2) 動作の方向
- (3) 動作の目的
- (4) 動作の程度
- (5) 動作の情状

が分類されている。(1),(2)はおおむね《教科書》の「結果補語」,「方向補語」と一致するが,(3)の「動作の目的」のところでは例としてあげられている

㊸请你給我倒杯茶喝。Qǐng nǐ gěi wǒ dào bēi chá hē. (どうかお茶を一杯ついでください)

のごとき文型については、《教科書》は「連動式」と呼ぶ。

また,(4)の「動作の程度」はいわゆる「程度補語」ではなく、

㊹我找老四一趟, 解釋一下? Wǒ zhǎo Lǎosì yìtàng, jiěshì yíxià? (一度私が老四をたずねて説明しましょうか)

の中の「一趟」, yìtàng「一下」yíxiàのような動量を表す「補語」をいう。そして《教科書》でいう「程度補語」つまり「得」de によって結合される「動補構造」は、本書では(5)の「動作の情状」に分類されているのである。

§8. 1952年7月から1953年11月まで、月刊紙《中国語文》に《語法講話》が連載されたが、これはその後単行本にまとめられ、1961年12月に丁声樹、呂叔湘等著《現代漢語語法講話》⁽⁸⁾となって出版された。本書(以下《講話》と略称する)は、その序文にもあるように、もとの《語法講話》に若干の修正を加えて成ったものである。《語法講話》の「動補構造」は《講話》では「補充構造」となり、「動詞補語」と「形容詞補語」の両方を含むことにしたのが注目される。本書はいちおう張志公と同様に、中心語の前にある修飾成分を「修飾語」と定義し、中心語のあとにある修飾成分を「補語」と定義しているが、上掲の《語法知識提要》や《漢語語法常識》と異なり、名詞の「補語」を認めないので、名詞のあとに修飾成分がきても、「補語」と呼ばず、「修飾語」と呼ぶのである。例えば、「同位語」については、張志公は名詞及び指示代名詞の「補語」だとしているが、本書では「修飾語」に分類される。

また、動詞、形容詞の「補語」の分類についてみると、先ず「得」de による接続の有無によって補語は大きく二つに分けられ、そのうち、意味によってさらに細

かい分類がなされている。そのより詳細な分類はつぎの如くである。

A. 「得」de によらずに結合される補語

㉑ 不大一会，人到齐了。Bú dà yíhuì, rén dàoqí le. (まもなく人々がやってきて、全員がそろった) → 結果補語

㉒ 不要吃快了，吃快了容易得病。Bú yào chīkuài le, chīkuài le róngyì dé bìng. (急いで食べるな、急いで食べると病気になりやすい) → 程度補語

㉓ 她拿出钥匙来。Tā náchū yàoshi lái. (彼女はカギを取り出した) → 方向補語

㉔ 马克思生在1818年，死在1883年。Mǎkèsī shēngzài yībāyībā nián, sǐzài yībābān nián. (マルクスは1818年に生まれ、1883年に死んだ) → 動賓構造が補語となる

B. 「得」によって結合される補語

㉕ 只有两个耳朵冻得通红，红得象要落下来的果子。Zhǐ yǒu liǎngge ěrduo dòngde tōnghóng, hóngde xiàng yào luòxiàlái de guǒzi. (両方の耳だけが寒さでまっ赤になり、熟して落ちようとしている果物のようだ)

㉖ のような文は本書では「程度補語」と呼ばれるが、《教科書》の理論によれば、

㉗ は当然「結果補語」に分類されなければならない。

一方、1962年4月に出版された《現代漢語》⁽⁹⁾では、「補語」は先ず

<1> 結果補語 <2> 方向補語 <3> 可能補語

などに分類され、<1>の結果補語はさらに次のように分類される。

A. 「得」de によって結合されるもの、例えば

㉘ 说得对 shuō de duì (いうことが正しい)

㉙ 热得出汗了 rè de chūhàn le (暑くて汗がでた)

B. 「得」によらずに結合されるもの、例えば

打破 dǎpò (打ち破る) 写错 xiěcuò (書き違える)

§9. 以上は中国で刊行された主な文法書における「補語」の扱い方を簡単に通覧したものである。文法体系の違いにより、定義、分類も異なり、少なくとも「補語」については「名同実異」の結果がもたらされている。これは中国語の「補語」の構造の複雑さとも関係があるといえようが、機能的な分類は漸次と綿密になってきたといえるのではないかと思う。

例えば上述のように《新著国語文法》では、「補語」と「修飾語」はまだ未分化であったが、張志公の《漢語語法常識》にいたると、「中心語の前にある修飾成分は修飾語で、中心語のあとにある修飾成分は補語である」という見解が確立されている。また、よりふるい文法書の分類では名詞も「補語」をとることができたのであるが、《講話》になって、「補語」がとれるのは動詞と形容詞に限られている。

また、その分類基準をみると、形式——「得」による接続の有無——によるもの、意味——結果、方向など——によるものと、その両方によるものがあり、文法体系の記述としては明確さを欠いている。しかも、例えば「程度補語」は「結果」を表す場合もある（上掲《教科書》における「程度補語」の定義）し、「方向補語」も派生的な意味として「結果」を表す場合がある。さらに、「可能補語」とは実は「結果補語」、「方向補語」などの可能・不可能形であるにすぎない。したがって、「可能補語」を「補語」の一類とすると、かえって混乱をまねくことになるのである。

1973年3月上海復旦大学語言研究室から《漢語提帶複合謂語的探討》⁽¹⁰⁾（以下《探討》と略称する）が出版された。本書では、上述の文法諸家とは全く異なった角度から中国語の「補語」について分析を行っており、注目すべきいくつかの試みがなされている。次にこの《探討》について述べてみたいと思う。

§10. 《探討》では先ず現代中国語の述語を

<1> 単純謂語 例えば「我写信」wǒ xiě xìn. 「他勇敢」tā yǒnggǎn.

<2> 複合謂語

に分類し、典型的な「複合謂語」として次の四種類を分ける。

1. 並列複合謂語 「吟诗作画」yínhīzuòhuà（詩を吟じ、絵をかく）
2. 順遞複合謂語 「上街买布」shàngjiēbǎibù（街へいって、布を買う）
3. 接合複合謂語 「化整为零」huàzhěng wéilíng（集中したものを分散させる）
4. 提帶複合謂語 「打败敌人」dǎbàidírén（敵をうちやぶる）

「提帶複合謂語」についての解説によれば、『打』dǎ と『敗』bài という二つの動詞が互いに『提帶』しあい、帰結の関係をなし、『打』dǎ の結果あるいは前途は「敌人」díren の失敗であることを表す」という。とすればここにおける「提帶複合謂語」は《教科書》の「結果補語」、「方向補語」、「可能補語」の「動補構造」の総称である、ということができる。その構造について、《探討》はこう述べて

いる。

「このような『提帯複合謂語』は二つの成分からなり、一つは『提挈成分』で、これは話者が述べようとする動作あるいは情況であり、『坐起』zuòqǐ、『臥倒』wòdǎoの『坐』zuòと『臥』wòの類はそれである。もう一つは『随帯成分』で、話者の述べようとする発展変化の情況であり、『坐起』zuòqǐ、『臥倒』wòdǎoの『起』と『倒』の類はそれである」。

すなわち、本書ではいわゆる「動補構造」を述語の複雑な形と見做し、「補語」を動詞の「随帯成分」と呼ぶ。この「随帯成分」は「結果」、「方向」などを表わす語で構成され、色々な意味を表すが、機能的に同じものとして扱っている。これは実に合理的な分類であると言わねばならない。かつまた少なくとも次の二点において優れていると思われる。

<1> 従来の「結果補語」、「方向補語」……という分類法では、派生的な意味で使われる「補語」について分析するときに若干の困難が生ずる。例えば

②这些稿子你明天一定得写出来。zhèxiē gǎozi nǐ míngtiān yíding děi xiě chulai. (あなたはこれらの原稿をあす必ず書きあげなければならない) では、《教科書》の分類によれば、ここの「出来」は「方向補語」の派生的な使い方であるというが、意味から分類すれば当然「結果補語」に入れなければならない。とにかくいずれに分類しても疑問が残るのであろう。《探討》ではすべて「随帯成分」とし、「方向」や「結果」などは、これら「随帯成分」の用途の一つである、としている。「随帯成分」の意味は文脈によって色々と変わるが、《探討》では、一、移転 二、経歴 三、帰結 四、趨向の四つの用途にこれを分ける。むろんそれらの用途の間に越えられない境界はない。一つの「随帯成分」が色々な「提挈成分」と結合して、様々な異なる意味になりうるのであり、それを前掲の「結果補語」、「方向補語」などの概念で規定することには、やはり無理があるように思われるのである。

<2> 《探討》の分類のもう一つの長所は、いわゆる「可能補語」についての説明が明確になった、ということであろう。「結果補語」、「方向補語」、「可能補語」……という分類の仕方では、「可能補語」が他の補語とは別個の文法成分であるかのように誤解されやすいが、実は前にも述べたように、「可能補語」は可能・不可能を表すものではあるが、もともと「結果補語」と「方向補語」の可能・不可能形である。したがって「可能補語」は「結果補語」と「方向補語」の存在を前提とし

ている。《探討》では、これを「提帶複合謂語」の二種類の肯定と否定の一つとしてこれを取上げているが、それはつぎの通りである。

A. 「提帶」構造全体の肯定と否定

③他关好大门，摸进自己的屋子里。Tā guānhǎo dà mén mō jìn zì jǐ de wū zǐ li. (彼はちゃんと玄関の戸を閉め、手探りで自分の部屋に入っていった)——肯定はそのままである。

④今天你「不」说清楚，咱们没完！Jīntiān nǐ “bù” shuō qīngchǔ, zánmen méi wán. (今日はっきりと説明をしてくれなければいつまでたっても終わらないぞ)——否定は「提挙成分」の前に「不」をおく。

このような否定は、動作又は状態とその発展変化の状況がいずれも出現しないことを示す。

B. 随帯成分の肯定と否定

④(众人)一齐併力掘那石龟，半日方才掘「得」起。(Zhòngrén) yìqí bìnglì jué nà shígūi, bànrì fāngcái jué “de” qǐ. (<みんなが> 一齐に力を合わせてその石亀を掘り、長い時間かかってやっと掘り起こせた)——肯定は随帯成分の前に「得」をおく。

④这些名目，未庄人都说「不」明白…… Zhèxiē míngmù, Wèizhuāng rén dōu shuō “bù” míngbai. (これらの職名の名前は、未荘の人たちにはきいても判らないものである……)——否定は随帯成分の前に「不」をおく。

このような否定は、「随帯成分」の表す発展変化の状況が実現できないことを示す。

いうまでもなく、Bは「可能補語」に相当する。このように扱う方が誤解がなく、合理的であることは明白である。

以上は《探討》の分類の優れた点について述べたのであるが、しかし、本書はまったく問題がないわけではない。疑問に思われるところを三点にしぼって述べてみたい。

<1> 現在一般に「賓語」と呼んでいる文法成分をなぜ「補語」と呼んでいるのか。例えば

④我真傻，真的，祥林嫂抬起「她没有神采的眼睛」来，接着说。Wǒ zhēn shǎ, zhēnde, Xiánghánsǎo táiqǐ “tā méiyǒu shéncǎi de yǎnjīng” lái, jiēzhe shuō. (私はほんとうにバカでした。ほんとに、祥林嫂は彼女のその

元氣のない目をあげて、つづけて言った)

の「她没有神采的眼睛」 tā méi you shéncǎi de yǎnjīng は現在中国の文法書では一般に「賓語」として扱うが、本書では「補語」であるという。さらに「補語」という用語について、本書の注ではこう説明している。「補語は述語の補足成分である。例えば『我读书』Wǒ dú shū, 『你是学生』Nǐ shì xuéshēng, 『他能文能武』Tā néng wén néng wǔ. という三つの文の中の『书』, 『学生』, 『文』, 『武』はすべて補語である。」(p. 27)

上に述べた中国語文法の諸家の間においては「名同実異」の用語が多いということとは前に述べた。しかし、諸家の「賓語」の指す内容はほぼ一致するようである。《探討》はどのような文法体系にもとづいて「賓語」を「補語」に含むか不明である。

<2> 本書では多くの例文を《儒林外史》や《水滸伝》などの白話小説からとっているが、これらの小説の語法は現代中国語語法と異なる所も少なくない。例えばその p. 27 につきのような例文があげられている。

④王員外賞了报喜人酒饭，謝「恩」过，整理行装，出江西到任。Wáng yuánwài shǎngle bàoxǐrén jiǔfàn, xiè “ēn” guò, zhěnlǐ xíngzhuāng, chū Jiāngxī dào rèn. (王員外が報喜人に酒と食事を与え、恩を謝し、旅支度をして、江西へ赴任に行った)

ここでは目的語が「提挙成分」と「随帯成分」の間に入る例として挙げられているが、現代語では「謝恩过」は当然「謝过恩」というべきであろう。本書は現代中国語と白話小説の中国語とを同一基準で論じ、同じレベルで分類している。ここに些か問題があるように思われる。

<3> 本書は「随帯成分」である「过」, 「了」, 「着」についてこう述べている。「これらの語を特殊なものだと見做す人がいるが、我々の調査研究の結果では、それらとはかの『随帯成分』の動詞との間にこれといった特に異なるようなところをみいだすことができなかつたし、またこれら三者の間にもこれといった特に同じであるというようなところをもみいだすことができなかつた。『过』, 『了』, 『着』を特殊だと見なし、特殊な傾向があるというのは、我々の考えでは、事実の裏づけのないものである。」(p. 35)

「过」, 「了」, 「着」は従来の文法書では Aspect を表す「時態助詞」として、特別な扱いをしてきた。例えば、孫徳宣は《⁽¹¹⁾助詞和嘆詞》(1957)において「过」,

「了」,「着」,「来着」の四つを「時態助詞」としている。もちろんこの場合の発音は「过」guo「了」le「着」zheである。《探討》で出した結論は,「了」,「着」がどの発音である場合について述べたものなのか不明であるが,「了」leと「了」liǎo,「着」zheと「着」zháoはそれぞれ同じ文字で表す二つの語である。呂叔湘は《語法修辭講話》の中で,「着」(zhe)と「了」(le)を一類とし,「着」(zháo)と「了」(liǎo)を別の一類に入れている。(p. 29)《探討》は事実上別個の語であるものが,たまたま同一の文字であるために,ひとつの文法成分として論じられている。例えば本書の例文についていうと

㊤ 母亲和宏儿都睡「着」了。(鲁迅:《故乡》(Mǔqīn hé Hóng'ér dōu shuì “zháo” le. (母と宏児は眠ってしまった) (p. 24)

㊦ 他穿「着」着白褂子, 黑裤子, 头上戴「着」大檐草帽子, 手里拿「着」长把鞭子, “噼啪”一甩, 赶「着」大车直奔天门。(浩然:《金光大道》32頁) Tā chuān “zhe” báiɡuàzi, hēikùzi, tóushang dài “zhe” dà yán cǎo-màozi, shǒuli ná “zhe” chángbǎ biānzi, “pīpā” yìshuǎi, gǎn “zhe” dàchē zhí bēn Tiānmén. (彼は白いシャツを着, 黒いズボンをはいて, 頭にひさしの広い麦藁帽子をかぶり, 手に柄の長いむちをもって, 「ヒュー」とそれをふりまわして, まっすぐ天門へ車を走らせた) (p. 24)

では, ㊤の「着」は zháo であり, ㊦の「着」はすべて zhe である。zháo と zhe は本来その用法が同じではなく, 例えば zháo の変化には

睡着 shuìzhào 没有睡着 méi yǒu shuìzhào 不睡着 bú shuìzhào 睡得着 shuìde sháo 睡不着 shuìbuzháo があるが, zhe の変化には

穿着 chuānzhe (否定は「没有穿」)

しかなく, 穿不着 (chuānbuzhe) などのような用法はない。

同様に本書の例文

㊧ 咱怎能好「了」疮疤忘「了」痛? Zán zěnnéng hǎo “le” chuāngbā wàng “le” tòng? (革命現代京劇《竜江頌》第八場聞上風雲) (われわれは「のどもと過ぎれば熱さ忘れる」という様なことをけっしてしてはならない)

の「了」も le であり,「好不了(le)」「好得了(le)」はいえないのである。以上述べたように本書の「过」,「了」,「着」の扱い方にはやはり問題があるのではないかとと思われる。

(12)

§ 11. 「把」字句になるための条件として呂叔湘は《把字用法的研究》の中で「動詞自身の意味、賓語の性質、文全体の構造の三つの面から考察しなければならない」と述べている。小稿では、「補語」について考察しているので、「動補構造」の面から「把」字句を考えてみたい。

王力は主に動詞の意味の面から「把」字句を考察した。《中国語法理論》(前掲)の中で王力は「把」字句の形を「処置式」と呼び、次の五つの場合は「把」を用いることができないと述べている。

(1) 叙述語(述語動詞をいう——筆者)が一種の精神行為(mental act)を表わしている場合、例えば「我爱他」を「我把他爱」Wǒ bǎ tā ài. と言い換えることができない。

(2) 叙述語の表しているのが一種の感受現象(receptive phenomenon)である場合。例えば、「我看见他」Wǒ kànjian tā. を「我把他看见」Wǒ bǎ tā kànjian. と言い換えることができない。

(3) 叙述語の表す行為が目的語の表す事物の状況を変更させることができない場合。例えば、「我上楼」Wǒ shàng lóu. を「我把楼上」Wǒ bǎ lóu shàng. と言い換えることができない。

(4) 叙述語の表す行為が一種の意外な遭遇である場合。例えば、「我拾了一块手帕」Wǒ shíle yíkuài shǒupà. を「我把一块手帕拾了」Wǒ bǎ yíkuài shǒupà shí le. と言い換えることができない。

(5) 叙述語が「有」「在」などである場合。例えば「我有钱」Wǒ yǒu qián. を「我把钱有」Wǒ bǎ qián yǒu. と言い換えることができないし、「他在家」Tā zài jiā. を「他把家在了」Tā bǎ jiā zài. と言い換えることができない。

呂叔湘は王力の挙げた五種の中の(1)(3)(4)は成立できないとし、次のような例文を挙げて反論した。

(1) に対しては

㊸这么一来，他可要把你恨透了。Zhème yí lái, tā kě yào bǎ nǐ hèn tòu le. (こうなると、彼はあなたを徹底的に憎むだろう)

㊸盼来盼去，总算把这一天盼到了。(Pàn lái pàn qù, zǒng suàn bǎ zhè yì tiān pàn dào le. (待ちに待って、やっとその日がやってきた)

㊸你把这句话再想想看。Nǐ bǎ zhè jù huà zài xiǎng xiǎng kàn. (あなたはこのことばをもっと考えてごらんさい)

(3) に対しては

㉑把三百级台阶一口气走完。Bǎ sānbǎi jí táijiē yìkǒuqì zǒu wán. (三百段ある階段を一気に登りきる)

㉒你把这个留着自己用吧。Nǐbǎ zhège liúzhe zìjǐ yòng ba. (あなたはこれをとっておいて自分で使いなさい)

(4) に対しては

㉓把日子誤了。Bǎ rìzi wù le. (ひにちを間違えた)

㉔把机会错过。Bǎ jīhuì cuòguò. (機会を見のがす)

㉕把姑娘的东西丢了。Bǎ gūniangde dōngxi diūle. (お嬢さまのものをなくした)

㉖先把太太得罪了。Xiān bǎ tàitai dézùile. (すでに奥様の怨みをかった)

(4) は目的語の「有定」, 「無定」と関係があるのでここでは除外して考えるが、(1) (2) に対して呂叔湘が挙げた例文についてみてみたい。

呂叔湘が「精神行為でも『把』字句を用いることがある」として ㉔㉕㉖ を挙げたが、これでは王力の説をくつがえすことができないように思われる。なぜなら、王力は「我把他愛」Wǒ bǎ tā ài. が成立しないのは「愛」は精神行為を表すからだとして説明している。一方呂叔湘が挙げた例文の述語動詞 a「恨透」b「盼到」c「想看」は精神行為を表す動詞に何らかの意味が附加された形で、すでに純然たる精神行為の動詞とはいえないのである。a, b は動補構造であり、精神行為のみならず、その行為によってもたらされた結果——透, 到——まで表現しており、これが「把」字句を立させたとのである。呂叔湘がこの補語の役割を無視して ㉔ ㉕ ㉖ を挙げて王力の(1)を反論したが、これは的はずれと言わねばならない。なぜなら、王力は(1)の中で、成立しないと述べたのは「我把他愛」Wǒ bǎ tā ài. (「愛」は単純動詞)であり、「我把他爱上了」Wǒ bǎ tā àishàng le. (「爱上了」は動補構造)のような文が成立しないとは言っていないのである。

と同様に、呂叔湘の(3)に対する反論も誤りである。王力は「我把楼上」で「上」という単純動詞を用いたのに対して、呂は㉑では「走完」を、㉒では「留着」をと、動詞の複雑な形を用いている。これで王力の(3)を反論しようとしているが、王力の(3)では動詞を複雑にした場合のことにはふれていないのである。動詞が複雑になれば当然「把」字句が成立する可能性がでてくる。胡附、文鍊は、「我把楼上」がいえないのは「この単音節動詞に補語や附加語がつけ加えにくい」から

(14)
であるとしている。(もちろん動詞が複雑化すれば、「把」字句がすべて成立するという訳ではない。例えば「躲到, 遇到, 得到, 离开, 接近, 成为, 赞成, 上「楼」,
(15)
下「山」などを述語動詞にもつ場合は「把」字句が成立しない)

上に呂叔湘を引用しつつ述べた様に「把」字句が成立するか否かは述語動詞の条件のみでなく、賓語の性質、文全体の構造も条件の一つになる、しかし、この三つの条件のもとでは述語動詞がもっとも重要な役割をしている。例えば賓語の性質から「把」字句が成立しないものでも、述語動詞が補語をとるなどして複雑化すれば、ほとんどが成立可能になる。

§ 12. 以上は中国語の「補語」について、その扱われ方、「把」字句との関係などを述べ、日頃抱いているいくつかの疑問点を私なりに分析してみたが、中国語の「補語」に関してはなお未解決の問題が多い。ただし、《探討》の分析法によって《教科書》でいう「結果補語」、「方向補語」などは若干整理できそうであるので、それが今後これらの「補語」に関する考え方の主流をなすものと思われる。

また、《教科書》でいう「程度補語」については、《探討》では全く触れていないが、筆者はそれは前掲の「結果」、「方向」などの「補語」と性質が異なり、「述語の複雑の形」とすることができないので、目下のところ、これを別個に扱うのが適当ではないかと考えている。

注

- (1) 漢語教科書 北京語言学院編 (1958.8) 本稿では東京光生館発行の日本語版漢語教科書縮刷版を用いた。日本では本書の文法体系の用語が一般的であるので、小稿では特別な場合を除いて、本書の用語を用いることにする。
- (2) 新著国語文法 黎錦熙著 (1932) 商務印書館出版。
- (3) 中国語法綱要 王力著 (1951) 開明書店四版。
- (4) 中国語法理論 王力著 中華書局 1954年12月。
- (5) 語法修辭講話 呂叔湘, 朱德熙著 開明書店 1952年12月。
- (6) 語法知識提要 凌冰著 北京大衆出版社 1954年9月第二版。
- (7) 漢語語法常識 張志公著 初版1953年11月中国青年出版社。
- (8) 現代漢語語法講話 丁声樹, 呂叔湘等著 1961年12月初版 中国語文雜誌社編。

- (9) 現代漢語 北京大学中国語言文学系漢語教研室編 新華書店北京發行所發行 1962.4。
- (10) 漢語提帶複合謂語的探討 上海復旦大学語言研究室著 1973年3月 上海人民出版社出版。
- (11) 助詞和漢詞 孫德宣著 新知識出版社出版 1957年9月 p. 29~p. 33.
- (12) 把字用法的研究 呂叔湘著 中国科学院語言研究所出版 《漢語語法論文集》 p. 125~p. 144.
- (13) 「把」字句和「被」字句 王選著 上海教育出版社 1959 p. 18.
- (14) 現代漢語語法探索 131 頁。
- (15) 上掲 《「把」字句和「被」字句》 p. 13 より。